

平成27年度 清水特別支援学校 学校関係者評価書

<p>(問) ・学校評価書の成果と課題が適切かどうか。 ・成果と課題を踏まえた今後の改善策・向上策が適切か。 ・その他</p>
<p>(御意見を伺った方) 学識経験者、島寺地区自治会長、朝日南保育所長 福授園当田事業所長、 P T A会長</p>
<p>(御意見)</p> <p>○教育課程・学習指導・研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取組指標の判断基準が指導の過程に沿って①～⑤と段階を考慮したものに修正されたが、それに伴って成果指標も修正されるとなお良い。また、自己評価がやや低い教員の支援方法についても考えてほしい。 ・保護者との懇談会を持つことで、本人や保護者の思いを理解できたのではないか。将来を見据えて保護者と懇談をすることは大切である。特に今授業で取り組んでいることが、将来どんな力につながるのかを保護者と教員が一緒になって考えることが大切である。 ・キャリア教育を取り入れたことや将来を見据えた支援に取り組めたことが良かった。
<p>○生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな事故がなかったことを結果に反映させた方が良い。 ・安心・安全な環境作りは本当に大切である。事業所でも月1回の会議でヒヤリハットは必ず出てくる。大事故につながりかねないことなので改善、職員への周知は大事である。
<p>○進路指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学部から高校卒業後の進路の話をするのは難しいのではないか。 →校長より：障害のある児童の保護者が、障害のある方の卒業後の進路先や利用できる制度にどんなものがあるのかを知らない場合が多い。まずは、障害のある方の進路先のイメージを持ってもらうことを目的としている。 ・以前テレビで、障害を持っている方が起業し自立している番組が放映された。このようなVTR視聴も進路指導になるのではないか。 ・できれば、就労関係の人たちと話しができる場があるとよい。
<p>○支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター的機能に関する研修に参加したことが、センター的機能の意義や取組みを本校教員が理解したといえるのかについては検討が必要である。「理解した」と言えるために、教員自身が支援の担い手になれるまで理解を深めていく必要がある。その手立てが今後の課題だと思われる。 ・本校のコーディネーターに訪問してもらい、職員も学べて、保育園としても助かっている。
<p>○地域との交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の評価の対象は学校間交流であるが、居住地校交流も行っているのであれば今後そちらも評価してはどうか。 ・障害のある方が地域で知ってもらえていない実情がある。障害のある方も地域で育てていくという体制を作ることが大切である。 ・居住地交流だけでなく、保護者が地区の行事に参加させるなどの努力をすることも必要である。家からいなくなったなど何かあった時、障害のある方を知っている方が地域にいと連絡してもらえたり、よりよく過ごしたりできる。 ・いろいろな人と交流を持つことで、新しいことにチャレンジできたり、刺激を受けることが生活の幅を広げたりすることにつながると思うので、今後も続けると良い。
<p>○運営（多忙化解消）（人権）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権を尊重した教育と一口に言ってもなかなか難しいが、よい言動は褒め、何でも話せる雰囲気を作り、意思決定を支援し、人としての尊厳を守りながら、楽しく生活できる環境を作っていけると良い。
<p>○全体（総括）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来に目を向けることは、本人はもちろんのこと、保護者にも目標ができることで意欲につながり、毎日の励みになると思うのでこれからも保護者のニーズを取り入れた教育を続けていってほしい。 ・何よりも安全・安心が一番なので、日ごろからの心構えを特にお願いしたい。
<p>○学校評価を踏まえた今後について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域・学校協議会委員の方からいただいた貴重な御意見を真摯に受け止め、平成28年度のスクールプランの重点目標や具体的取組に活かしていきたい。評価項目もより具体的なものにしたい。 ・今後も保護者と共にキャリア教育の在り方について考え、授業改善を行っていきたい。 ・健康で安全な学校環境づくりについては、引き続き教職員一同の危機管理意識を高め、事故の未然防止に全力を尽したい。 ・センター的機能、交流及び共同学習、キャリア教育などの用語のわかりやすい説明に心がけたい。